

事業所名 グループホーム小町

運営推進会議等開催報告書

開催日時 令和 6年 6月 28日（金）14時00分～14時45分		
参加者		議題
利用者	0名	1 行事報告
利用者家族	1名	2 今後の行事報告
地域住民の代表者	0名	3 利用者様状況報告
市職員	1名	4 身体拘束適正化検討委員会の議題について
地域包括支援センター職員	1名	5 質疑応答
事業所	3名	6 次回会議開催予定日
会議録		
<p>1. 行事報告について</p> <p>《5月》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12日…母の日行事を行いました。利用者様と一緒に稲荷寿司を握ったり、野菜の調理・盛り付けなどを行い、昼食においしく頂く事ができました。また15時のおやつには、いちごと生クリームを添えた水ようかんを召し上がって頂きました。折り紙で作った「感謝のメッセージ付きカーネーション」をプレゼントさせて頂きました。 ・12日…消防避難訓練を行いました。日中の地震によるキッチンからの火災を想定して避難誘導を行いました。避難誘導後は、玄関外で水消火器と的当てを用意し、消火訓練も行わせて頂きました。 ・19日 90歳となる利用者様のお誕生日会を行いました。仲の良い利用者様からタオルやハンカチのプレゼントのお渡しがあり、感動されていました。 <p>《6月》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11日 訪問理美容を行いました。きれいさっぱりしていただきました。 ・16日 父の日行事を行いました。利用者様と一緒に肉巻きおにぎり作りにチャレンジして昼食を作り、一緒に召し上がりました。15時のおやつタイムには、手作りのリンゴのゼリーを召し上がって頂きました。 ・22日 バーベキューイベントを行いました。利用者様が野菜を切ったり焼いたりして、料理作りに参加して頂き、楽しいイベントとなりました。 ・25日 感染症訓練を行いました。嘔吐物の処理や対応方法を訓練しました。 		

2. 今後の行事予定

《7月》

- ・91歳となる利用者様のお誕生日会
- ・七夕行事

3. 入居者様状況報告

- ・利用者様9名（男性入居者1名 女性入居者8名）
平均年齢 88歳（最低年齢者82歳）（最高年齢者97歳）
平均要介護度 2.78

4. 身体拘束適正化検討委員会の議題について

議題

「転落・ずり落ちによる身体拘束を行わないための介護」

1. 転落・ずり落ち防止のため、行ってしまいがちの身体拘束

① 車椅子ベルト

- ・車椅子に固定される事により、同じ姿勢を長時間強要されることは大きな苦痛が伴い心身の廃用性の症状は進行する。自身で立ち上がることもできない為、除圧が上手く行えず、床ずれのリスクだけでなく骨粗しょう症が進行し骨折のリスクも増える。
- ・立ち上がる事ができない為、筋力低下やバランス感覚・歩行能力も低下し、転倒・転落による打撲や骨折の危険性が大きくなる。
- ・精神的なストレスがたまり、動き出したくなるので、それを理由にまた拘束されてしまうと典型的な悪循環に陥る危険性がある。

② ベッド柵

- ・閉じ込められている閉塞感や不安を感じ、混乱の原因になる。柵を無理に乗り越えようとする転落を誘発し、脳挫傷などの大きなケガに発展する可能性が高くなる。

2. 原因とアセスメント

① 身体面からのアプローチ

- ・転落、ずり落ちの原因・目的を考える。尿意、便意、痛み、かゆみなどの感覚、不穏やせん妄などの意識状態について評価する。それらの原因があれば今度はその原因を考え、解消方法を考える。

② 心理面からのアプローチ

- 起き上がりや立ち上がり動作が、退屈やストレス、孤独感や周囲への関心から生じていることがある。認知症が進み、歩行能力が低下していても、簡単な作業をしてもらったり、明るい挨拶、スキンシップ、馴染みの関係づくりなどの試みで心理的に安定することがある。

③ かかわりの見直し

起き上がり、立ち上がりがスタッフにより提供されるケアの不足の結果であることが多く見られる。5つの基本的ケアの不足は、いずれもそのまま頻回な起き上がり、立ち上がりに直結するので注意が必要。椅子上での拘束は、日中時間帯、長時間にわたることが多く、運動・肺活量の不足を招き、不眠や夜間の不穏や興奮の原因になる。スタッフにも放置や無視をせず、ストレスをできるだけ与えないかかわりが求められる。

◎転落やずり落ちの危険性がある利用者様への安全対策は、スタッフがより多くかかわれる場所にもしてもらうことが大切。姿勢が悪くなった時、こまめに正すことができ、転落もすぐに目と手が届く範囲であれば予兆をみて、姿勢を戻す、休憩をいれるなど対応することができる。ベッドからの転落は低床ベッドやベッド下にマットを敷いたり、センサーを利用することでリスクが軽減できる。

3. まとめ

一旦身体拘束に頼ってしまうと長時間・長期間に及び利用者様が立ち上がれなくなった時に、初めて止めるという悲惨なことになりがちである。危険だからというだけで安易に対策を考えてしまうと、身体拘束を引き起こしてしまう。結果、利用者様の気持ちをよく理解し「今どうしたいか」「何を求めているのか」「今までのその人の生活リズムをしっかりと把握できていたか」など今一度見つめ直し、対策を考え改善に努めていく。グループホーム小町では今後も身体拘束を行わない介護を続けていく。

6. 質疑応答

《ご質問①》

これまでに事故につながる危険な状況があり、やむを得ず身体拘束をしたということはないのでしょうか？（ふたば地域包括支援センター様）

⇒グループホーム小町では身体拘束はありません。事故につながりそうな危険があるときは、毎回ミーティングを行うようにしています。職員間で課題や問題に対して話し合うと必ずアイデアが出てくるので、試すようにしています。その他各専門職の人などに相談をして助言をもらうことも大切だと考えています。（グループホーム小町）

《ご質問②》

身体拘束をしないという取り組みは大切であるが、一方でなかなか利用者様の安全を保つことは難しいと思います。ヒヤリハットや事故の件数はどうでしょうか？

（瀬戸市役所高齢者福祉課様）

⇒ヒヤリハットは積極的に出すようにしています。月に10件～15件ほどヒヤリハットが出ます。事故のすべてを防ぐことは難しいですが、できるだけリスクを軽減できる様に、少しでもひやりとしたことを情報共有することで事故を未然に防ぐことができます。（グループホーム小町）

《ご感想③》

本人がお世話になっています。この施設に入居して4カ月程度経ちます。職員の人には本当によくしてもらっています。本人が家にいないのでとても寂しい気持ちになることもあります。ほぼ毎日ここに来て会うことができるので、本当に感謝しています。(利用者様のご家族様)

⇒ありがとうございます。そう言って頂けて職員一同、本当に嬉しく思います。これからもご本人との大切なお時間を過ごして頂ければと思います。

(グループホーム小町)

7. 次回の運営推進会議開催予定日

2024年8月23日(金) 14:00～ 開催予定となります。

以上